Education Newsletter

Be there

— 子どもの心の動きに寄り添う —

2025.9..16
vol.5
福井大学教育学部附属幼稚園

学年を越えて
だれかの「好き」に協力する心地よさ

だれかの「好き」に出会い、その子の「実現したいこと」を応援したい思いから、いいことを思い付き、相互に遊びが盛り上がることがあります。

大好きな「エルサ」を演じる過程で、氷の結晶の髪飾りを教師に作ってもらった年長の女の子。魅力的な小道具を得て、どうやったら髪につけられるのか工夫したくなっているその子の姿を見た年中の男の子は、さらに役を盛り上げる小道具を思い付きます。

だれかの「好き」を応援し、協力する自分も好きになれる、そんな関係性があるとしたら、なんて素敵なことだろうと思います。

S先生とYちゃん、どうしたの？
あー、その髪飾りをどうやって髪に付けたらいいか相談しているんだね。きれいだもんね。キラキラしてて、本当の氷の結晶みたいだ。Yちゃんたちのステージ観るの、僕も楽しみなんだ。
そうだ！いいこと思い付いた！エルサが踊るとき雪が降るでしょう？あの雪を僕が降らせたら、さらにキラキラしてきれいなんじゃない？

これで作るのはどうかな？ハサミで削ると雪みたいな粉になるんだ。これをいっぱいためたらステージで降らせたいな。

ねえねえ、またいいこと思い付いちゃった。Yちゃんのステージを観るのに、長～い双眼鏡があるといいな。T先生にどうやったら作れるか相談してみようっと！
ふむふむ、いいのできたぞ。「こんなに長い双眼鏡で何見るの？」ってT先生が聞くから、「遠くを見るの」って答えたんだ。ふふふ。

あ！『レット・イット・ゴー』の曲が聞こえてきたよ。Yちゃんたちのステージが始まるみたい！わあー、素敵だな。Yちゃんも嬉しそう。よかったな！

どうしたの？　手伝おうか？

これでいいの～　自分を好きになって～♪

エルサとセーラームーンになりきって演じることが大好きな年長の女の子たち。日に日に自信がついてきて、振りも大きく堂々としてきます。『レット・イット・ゴー』の歌詞の通り、本当の自分を開いていく感じがします。その背景の一つに、年中の教師や男の子との関わりがありました。

この子たちがさらに輝くために素敵な髪飾りを作ってくれたのは、年中の教師でした。附属幼稚園には「みんなでみんなを見る」という保育観があります。子どもが園全体を自由に行き来しながら遊ぶので、教師も学年関係なく、臨機応変に関わり合っていきます。
また、一生懸命にチョークをハサミで削ってプラカップに白い粉をためていたのも年中の男の子でした。危なくないか見守っていると、力の入れ具合やチョークとハサミの角度を調整しながら、粘り強く雪を集めています。表情も真剣そのものです。この子にとって「雪をためる」ことは作業ではなく夢中になれる遊びだったのでしょう。

雪の粉の小道具は、安全上、ステージでは使われませんでした。しかし、だれかのために頑張っている思いを尊重し、やってみる前から禁止することはありませんでした。だから、十分楽しい遊びになったのだと思います。きっと、また新しい小道具を工夫して考えてくれることでしょう。